

# KUJIDORO Journal



**くじドロのお題 「好き」を集めました!**

**好きなたべもの**  
鴨江アートセンター アウトオブスクール (2014年11月)

**好きな食べもの**  
グローバルフェア クリエイト浜松 (2020年2月)

**好きな人に告白**  
竜洋北小学校 (2016年9月)

**好きな人の顔**  
めぐりアート+ (2021年)

**好きな給食**  
鴨江アートセンター エントランス (2016年)

**好きなごりら**  
春日井市文化フォーラム (2016年8月)

**好きな子の顔をさらに美化**  
白萩荘 (2017年8月)

**いちばん好きな場所**  
沢田マンションギャラリー (2016年)

**好きだった人**  
遠州横須賀 ちっちゃな文化展 (2012年)

**好きなたべもの**  
グローバルフェア クリエイト浜松 (2020年2月)

**私は魚るのがすきです**  
山のくじびきドロイニング 佐久間の里 (2018年9月)

**私の好きな人**  
遠州横須賀ちっちゃな文化展 (2016年)

**すきなおもちゃ**  
遠州横須賀 ちっちゃな文化展 (2016年)

**好きなごりら**  
春日井市文化フォーラム (2016年8月)

**もしも好きな人と両思いだったら**  
ポラリス児童クラブ (2017年10月)

**乾久子** (いぬいひさこ)

美術家。くじびきドロイニング主宰。イメージからイメージへと広げてゆくドロイニングを制作の基本とする。国内外の個展グループ展多数。2008年くじびきドロイニングを発案。2021年現在ワークショップは50カ所を超え、8000点を超える作品が生まれている。



チームくじドロ/デザイナー、学生、アーティスト、カウンセラー、研究者などさまざまな職種の男女が、くじドロのまわりに集まりくじびきドロイニングに関わり育てている。

**くじドロジャーナル vol.01**

2021年6月1日発行

テキスト / 乾久子 編集 / 乾久子 安達彩夏 (design hotori)  
デザイン / 安達彩夏 (design hotori) Web デザイン / 鈴木千裕  
撮影 / 牧田奈津美 (F4.5) 加藤和夫 塚本健斗 ほか  
くじドロジャーナルをつくる会 / 安達彩夏 磯部美月 乾久子 鈴木理恵 塚本健斗 名倉のぞみ 山本江里子 (50音順)  
発行 / スタジオNANI 〒432-8068 浜松市西区大平台1-23-9

お問合せ

ホームページ「くじびきドロイニングのすべて」 <http://kujidoro.net>  
公式Twitter @kujidoro  
お問い合わせ hisakoinui@mac.com



公式Webサイト



公式ツイッター





## くじびきドロイングの世界

くじびきドロイング(くじドロ)は、  
ことばと絵のリレーで社会とアートを柔らかくつなぐお絵かきのワークショップです。  
くじで引いたことばをお題に絵を描き、  
自分もまた誰かのためにくじのことばを残すというシンプルなルールで成り立っています。

まずはくじの運命に身を委ねる「わくわく」から始まり、  
次に、ことばを絵にすることを楽しめます。

不思議なことに参加者は、くじのことばに出会った瞬間、それがどんなに無茶ぶりのものであっても、  
自分でも気づかなかった創造の世界を広げ、描けないと言いつつ絵を描き上げます。  
そして、くじの言葉を残すときは、詩でも日常でもない特別な言葉を思いついたりします。  
くじドロの作品たちを見ていると人の想像力が無限であることに気づかされます。

どの絵を見ても自分だったらこのお題にこの絵は描けないなと思いついて、  
誰もが一人一人違う世界を持っていることに気づいて暖かい気持ちになります。

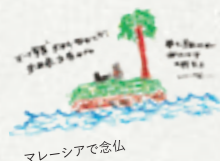
自由な言語世界に遊びながらお絵かきを楽しむくじびきドロイングは、  
老若男女さまざまな人たちにアートの門戸を広げています。

参加者は、ワークショップの中で自分にはない何かを見つけあいながら、  
人とつながり、土地と土地をも結んできました。

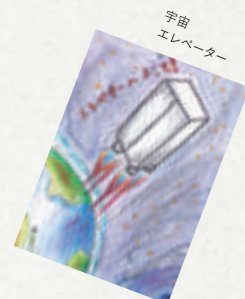
2021年6月 乾 久子



と



マレーシアで念仏



宇宙  
エレベーター



うちゅうじんの  
ロケット



やさしい王さま



お父さんの  
失敗

くじびきドロイングのやり方



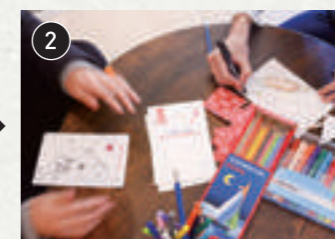
ちやんむし

## How to play Kujibiki Drawing

絵を描くことが好きなあなたはもちろん、ちょっと苦手なあなたも、まずは勇気を出してくじを引いてみて！  
ルールはとっても簡単。いっしょにくじドロをやってみよう♪



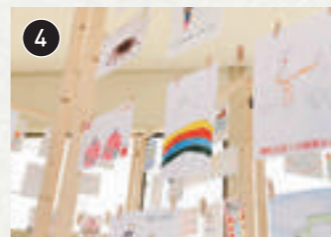
1 くじを引きます。  
どんなことばが出てくるかな？



2 くじに書かれたことばを絵にします。



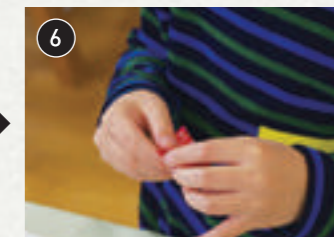
3 描けたら、くじのことばのテプラシールを作ります。



4 テプラシールを作品に貼り、  
展示します。



5 次のくじの言葉を考えます。



6 くじを三角に折り、くじの箱に残します。



いいこと

## Kujidoro Item

くじドロアイテム



この世界



### 手製本作品集

編集、印刷から始まり、糸綴じ製本を一冊ずつ丁寧に手作業で行なっています。ワークショップごとに50~100点の作品を紹介し、どのページから開いても楽しい言葉と絵の世界が広がります。  
2021年現在7冊刊行。



### 缶バッジ

今までの作品がデザインされたこの缶バッジは、2012年のちっちゃな文化展から登場しました。時に“当たり景品”になることもあり、すっかりお馴染みのグッズです。全7種類。  
デザイン: 桑原翼




### くじびき用紙とドロイング用紙

この三角くじを引くことから、くじドロが始まります。この瞬間がワクワクするのは、これからあなたが描く絵のお題が決まるから。ハガキよりも少し大きい画用紙に描きます。絵を描かない面には過去の名作が。




**静岡県**  
主婦  
杉山智子 さん



01. 2008年 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展  
02. お題の言葉を自分のイメージで絵にする。そして新たな言葉を次に残すって知らない誰かから受け取ったボタンを又知らない誰かに渡す感じ。この小さな繋がりが魅力的。

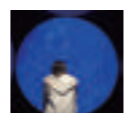
びっくりピエロ

**静岡県浜松市**  
グラフィックデザイナー  
名倉のぞみ さん




01. 専門学生のときに、のづあ公民館にて 02. 世代、距離、言語の壁を飛び越えて、意図せずどこかの誰かと繋がり、通じ合えるところが魅力だと思います。  
03. 多言語くじドロがもっと広がってほしいので、多国籍の方が集うイベント会場や日本語学校など  
04. ちゃわんむし

**高知県**  
団体職員・学芸スタッフ  
松本志帆子 さん




01. 高知市 02. ゆるやかなつながり。想像力の可能性をとも感じる。想像もなかった感覚、イメージ、視座をいろんな角度からもたらしてくれる。つながりたり自分の存在が認められるような感覚が、当人と対峙しなくても得られるところが現代にあっていて。SNSのような感覚ではなく、03. あります。04. 「大切なものは目には見えない」「明日のたいよう」「ムリな彼女」と「マレーシアで念仏」は思い深い。

**静岡県**  
藤枝市民  
増田克彦 さん




01. 横須賀街道ちっちゃな文化展 02. ①お題を自分で選べない(天から降ってくる)ところ ②描く人のセンスが現れるところ ③プリミティブな絵でも凝った上手な絵でも見て楽しめること ④お題を次の人に残して、繋がっていくところ 03. 藤枝市の蓮華寺池あたり 04. 「やさいの王さま」「うらみのたつまき」「大切なものは目には見えない(これは私の出したお題)」

**静岡県浜松市**  
浜松市鴨江アートセンター スタッフ  
松岡瑠璃 さん




01. 2019年4月、鴨江アートセンターを会場に開催した「ゆれるアイデンティティ」の中にくじドロで。 02. 普段よく使われる「言葉」でも、それをもとに描かれた誰かの「絵」が、自分では全く思いつかないようなものだった時。私たち一人ひとりとは違って、お題を次の人に残して、繋がっていくところ。 03. 誰かへのメッセージが行き交う郵便局の片隅。

**湖西市新居町**  
小学6年生  
杉浦櫻太郎 くん




01. 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展 02. 知らない人のお題に答えて、その絵を描くところ。そして、他の人の作品をみるところ。自分でお題を作れるところ。 03. 学校、図書館

小学5年生  
杉浦稟之助 くん




01. 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展 02. どんなお題がでるか分からないところ。 03. 新居小学校

**福島県会津若松市**  
博物館学芸員  
塚本麻衣子 さん




01. 2017年。大分県別府市で開催された「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」の展示・ワークショップで。 02. どこかのだれかに、そっと届くところ。近くてもいいし、思いっきり飛んでもいいところ。 03. 港町。船で旅をするように。渡り鳥の飛来地。渡り鳥が旅するように。 04. 乾さんが旅先で見てくれたスケッチブックが好きです。

**静岡県静岡市**  
静岡大学  
平野雅彦 さん




01. 2015年 福島県いわき市立豊間小学校 02. 参加者が夢になると、作者自身の存在すら消えてしまうこと。つまり、そこには押しつけがたく偶発性こそがひとつのアートになることを教えてくれる。 03. 台湾、ミャンマー

**静岡県浜松市**  
中学生  
大貫なつ葉 さん




01. 2014年鴨江アートセンター(7歳のとき) 02. 他人の描いた絵をたくさん見れるところ。

**静岡県袋井市**  
写真屋  
すずや さん




01. 200X年(失念)の遠州横須賀だと思えます。 02. お題を絵としてイメージしているときに脳内がいつもと違うモードに入るところ。 03. 工場の始業時とか(ぜひ就業時間内に) 04. どの作品もそれぞれに素晴らしい…。(ROMAです!)

**秋田市と糸島市**  
美術家等  
藤浩志 さん




01. 2017年はじまりの美術館の展覧会会場で。 02. ワクワクする感じがまずとても魅力的です。くじ引きで未来に何に出会うかとても緊張する瞬間ですね。そして、そこで与えられるお題の意外性。予想不可能性。さらにお絵かきを楽しむ時間の至福の時間。絵を描くことが許されている貴重な時間です。そして未来の誰かへ繋げるお題の橋渡し。魅力満載ですね。

**静岡県掛川市**  
静岡大学アートマネジメント  
育成講座受講生  
鈴木理恵 さん



01. 2015年のめぐりアート会場で。 02. とてもシンプルなルール(方法)なのに(だからこそ、かな)無限の広がりや深みがあるところ。無数の人々の、それぞれの小さな時間が積み重なっている感じ。 03. 「学校」という場所で継続できるという点と。あ、お父さん達にお勧めしたい。

**静岡県浜松市**  
クリエイティブサポート レッツ  
久保田翠 さん




01. 2016年「のづあ公民館」での「いいたてミュージアム」巡回展で。 02. その場にある力や、そこに往来する人たちの感性から生まれる創造力を、次に連鎖させていく秀逸なアートワークだと思います。出発と結節が実はあいまいで、連続と続いていくところが面白い。 03. 海外でやってものいでは? 04. レッツでやっていただいたときの障害のある人たちの作品。

日本全国 /  
くじびきドロイング  
インタビュー!

- 質問 01 初めてのくじドロをしたのは、いつ、どこですか?  
質問 02 くじドロの魅力はどこにあると思いますか?  
質問 03 これから、くじドロをやるといいなと思う場所や施設はありますか?  
質問 04 これまでの作品で好きなものがあつたら教えてください




**静岡県**  
グラフィックデザイナー  
磯部美月 さん




01. 通っていた専門学校の授業にて。 02. 同じような言葉(テーマ)でも、人によって違う表現になること。 03. 日本語学校とか、海外の人たちと交えてやるのも面白そうです。 04. 「と」という作品。ポップで可愛いです!

**高知県須崎市**  
すさきまちかどギャラリースタッフ  
佐々木ホゲツト さん



01. 2017年鷹工ミュージアム(高知)「暮らしの記憶、繋がる思い、紡がれていくことばたち」展 02. 描くものがくじをひくまでわからないワクワク感。予想外のものをひいたときに、何を描こうか悩むのが楽しい。時間をかけても、短い時間でさっと描いてもいい感じ。集積した時のカラフル感がきれい。あらゆるものを受け入れるやさしさ、器の大きさ、安心感。 03. 役所、警察署、病院とか。 04. 友人のお父さんが描いた「はらいそ」。


**静岡県浜松市**  
浜松国際交流協会  
松岡真理恵 さん



01. 2019年 浜松市福祉交流センター フィリピン・ナガイサ(クリスマス会) 02. 意外な人がとても絵が上手だったり、発想が素敵だったりすることを見発見できること。特に、外国人で日本語で十分表現ができていない場合でも、素敵な絵を描かれることがあって、はっとします。 04. 「宇宙エレベーター」宇宙にどっかんと飛び出すロケットが印象的でした。フィリピンルーツの子が一生懸命描いていました。


あくびをするライオン

**静岡県静岡市**  
教員  
木下仁美 さん




01. めぐりアート静岡 金座ボタニカ 2015 02. くじを引く度に普段使っていない脳みその一部や心の片隅をくすぐられるような感覚を味わえる。描く度に産み出す苦しみを楽しく味わえる。他人の絵を見ることで、世界の新しい見方を教えてもらえる。 03. 是非ワールドワイドな展開を! 04. 「きれいなうん〇」というお題をひいて自分が描いた絵は、いまだに自分の中で傑作です。

**静岡県浜松市**  
製版会社  
塚本健斗 さん



01. 乾さんの告知にて2011年ちっちゃな文化展で存在を知ることになりました。 02. お題に対してその人自身が持つ表現や解釈でそれぞれの個性が見えるのが楽しいです。


**香川県**  
作家・養護学校講師  
中村 妙 さん



01. おそらく掛川大須賀の文化展で。 02. 見知らぬ人がくじでつながってアイデアが広がること。 03. 動物のいる施設。


朝のようす

**静岡県静岡市**  
美術家  
白井嘉尚 さん




01. 2008年ちっちゃな文化展で。時間が止まったような街並みで子どもたちが楽しそうにお絵かきしていました。ステキなWSと思い、お声をかけて、「めぐりアート静岡」で開催していただきました。 03. 東静岡アート&スポーツ/ヒロバのコンテナギャラリーはいかがですか? WSの後、参加者と一緒に、グランシップで開催している乾さんの作品展示「ことばのまわり〜船と行く〜」を回遊するというアイデアです。

**静岡県静岡市**  
ギャラリーsensenci  
柴田恵子 さん



01. 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展 02. おみくじは誰でもやってみたくります。開くと! 思いもかけないことばが! そこであなたはすでにアーティスト---とは知らずに新しい自分に出会えます。みんなをみると人の想像力は限りないものだと思わせてくれる。 03. 学校 幼稚園 保育園 介護施設 などどこでもやってほしい。海外でも。 04. 一生懸命かいていた乾さんの夫君の絵。こどもたちの絵。

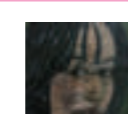
**福島県耶麻郡猪苗代町**  
元 はじまりの美術館スタッフ  
関根詩織 さん



01. 2017年 BEPPU PROJECTで。別府市の清島アパート 02. 会ったことも話したこともない人と、つながれること。会ったことも話したこともない人のことを、想像すること。くじドロをやると、その空間にいる人々が仲良くなれること。みんなそれぞれ感じ方も考え方も違うんだということを改めて知ることができると。 03. 会社。上司も部下も自然と仲良くなれる。駅のホームなど様々な属性のいろいろな人が集まる場所。

すてきなおひめさま


**愛知県新城市**  
教員  
湯浅千春 さん



01. 2019年 愛知県新城市立庭野小学校 02. 子どもも大人も一緒に楽しめること。絵が上手く描けなくても、一緒にいる人とお話をしながら想像を膨らませて、作る工程を楽しめばいいこと。全く出会ったことのない遠くの人ともつながることができること。 03. 中学校。市町村の姉妹都市。交流のある学校同士や海外の学校と。 04. 『お父さんの失敗』


忍術をつかう人

**静岡県浜松市**  
アートコーディネーター  
青木 明子 さん




01. 鴨江アートセンターのアウトオブスクールの企画 02. 老若男女だれでもくじびきドロイングに関われること。参加者や主催者、アーティストと皆で育てていけるアートワークであること。 03. 企業や行政の方々のコミュニケーションツールに。くじドロが核となり参加者の表現活動が広げられる場、公民館やアートセンター

**静岡県浜松市天竜区**  
図書館司書  
長谷川陽子 さん



01. 2018年 02. 言葉を書いた人、絵を描いた人が年齢や場所や時間やらを超えてコミュニケーションしているの、面白く体験しました。体験する前後でのくじドロの印象が違って見えたのがまた不思議でした。 03. 駅や公園はいかがでしょう。 04. 山のくじドロ/海のくじドロ(イベントに関わったので思い出があります。)

**福島県いわき市**  
特定非営利活動法人 Wunder ground  
島崎圭介 さん



01. 2015年7月に、いわき市豊間の小学校で実施しました。 02. 思いも寄らない出会いを自由な発想で別な形に転換して次につなぐ...答えも問題も無限にあり、どれもが正解です。自分たちの感情や思いをことばで表現する力、他人のことばを理解し共有する力を養うために実施したワークショップだったため、うってつけの内容でした。

100年前のくつ

**静岡県浜松市**  
ミュージシャン、デザイナー、介護ヘルパー  
マッスルNTT さん  
(吉田朝麻)



01. 2015年「くじびきドロイングのうた」を作った時。くじドロのメッセージを歌で届けたこともくじドロのかなと思います。 02. 歌からの引用ですが、「運命の言葉、描く、生まれる、新しい物語」「誰かと繋がる言葉と絵のリレー」「自分の紡いだ言葉がいつか描かれるファンタジー」 03. お家でくじドロ! くじとハガキが届いて、ハガキに絵を描き、新しく言葉を書き絵と一緒に投函するリモートくじドロ。 04. やさいい宇宙人(言葉が好きです。)

あるくすし



